

事例12

< 事例概要 >

- ・ 50 歳代の患者。発熱、腰部痛で夜間に救急受診。
- ・ 担当医師は発熱の原因検索の目的で胸腹部単純CT 依頼。
- ・ 急性前立腺炎と診断し、泌尿器科外来通院にて治療終了。
- ・ 約 2 年後、咳嗽が出現し胸部単純CT で右肺腫瘤を認め肺腺癌と診断。化学療法を開始するも、約 3 か月後に死亡。
- ・ 死因は肺腺癌、縦隔リンパ節転移。死亡時画像診断（Ai） 無、解剖 無。
- ・ 初回CT の画像診断報告書は翌日に作成された。報告書では肺腫瘍の可能性のある所見も記載されていたが、担当医師が画像診断報告書を確認した記録はなかった。